試験開始の指示があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。　γ

国　　語

（200点　90分）

注　意　事　項

1　解答用紙に，正しく記入・マークされていない場合は，採点できないことがあります。

2　この問題冊子は，59ページあります。問題は5問あり，第1問，第2問は「近代以降の文章」，第3問は「実用文」，第4問は「古文」，第5問は「漢文」の問題です。
　なお，大学が指定する特定分野のみを解答する場合でも，試験時間は90分です。

3　試験中に問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，手を高く挙げて監督者に知らせなさい。

4　解答は，解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば，**10** と表示のある問いに対して③と解答する場合は，次の(例)のように**解答番号10の解答欄の③にマーク**しなさい。

（例）

解答番号	解　答　欄
10	① ② ❸ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

5　問題冊子の余白等は適宜利用してよいが，どのページも切り離してはいけません。

6　**不正行為について**

①　不正行為に対しては厳正に対処します。

②　不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は，監督者がカードを用いて注意します。

③　不正行為を行った場合は，その時点で受験を取りやめさせ退室させます。

7　試験終了後，問題冊子は持ち帰りなさい。

Sample

第5問 次の【文章Ⅰ】は、王昭君という女性についてのエピソードである。また、【文章Ⅱ】と【文章Ⅲ】は、王昭君を題にとった漢詩である。これらを読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。

（配点　45）

【文章Ⅰ】

王昭君者、斉国王穣女也。年十七、儀形絶麗、以節聞。国中長者求之者、王皆不許、乃献漢元帝。帝造次不能別房帷、昭君恚怒久。会単于遣使、帝令宮人装出、使者請一女。帝乃謂宮中曰、「欲至単于者起」。昭君喟然越席而起。帝視之、大驚悔。是時、使者並見、不得止、乃賜単于。単于大悦、献諸珍物。昭君有子曰世違。単于死、世違継立。凡為胡者、父死

（注1）漢元帝　（注2）造次　（注3）別　（注4）恚怒　（注5）単于　（注6）然越　（注7）胡

A　B　（ア）

妻レ母ヲ。昭君問ニ世違一曰ハク、「汝ハ為レ漢也ト、為レ胡也ト」。世違曰ハク、「欲スレ為ラント胡耳ト」。昭君乃チ呑レ薬ヲ自殺ス。

（『世説新語』による）

（注）1 献――献上する。
2 造次――ごく短い時間。
3 別房帷――妾にする。寵愛する。
4 恚怒――恨み怒ること。
5 単于――匈奴の君主。
6 喟然――ため息をついて。
7 胡――匈奴。

【文章Ⅱ】

王昭君　　嵯峨天皇

弱歳辞ニ漢闕一（注1）　含レ愁ヒ入ニ胡関一（注2）
天涯千万里　　一去更ツテ無レ還ルコト（イ）
沙漠壊ニ蟬鬢一（注3）　　風霜残ニ玉顔一
唯余長安月　　照送幾重山

（注）1 漢闕――漢の宮殿。
2 胡関――胡への関所。
3 蟬鬢――蟬の羽のように透ける髪。

Sample

【文章Ⅲ】

奉レ和シ二王昭君一ニ　良岑安世よしみねのやすよ

虜(注1)地何ゾ遼遠(注2)ナル　関(注3)山不レ忍ビレ行クニ

魂情(注4)還ルモ二漢闕一ニ　形影(注5)向カフ二胡場一ニ

怨ウラミハ逐オヒテ二辺風一ヲ起コリ　愁ハ因リテ二塞路一ニ(注6)長シ

願ハクハ為リ二孤飛ノ雁一ガント　歳歳一タビ南ニ翔カケラン

（注）
1　虜地――未開の異民族の土地。匈奴を指す。
2　遼遠――はるかに遠い。
3　関山――関所と山々。
4　魂情――心。
5　形影――身体。
6　塞路――辺境の道。

Sample

問1 波線部(ア)「凡」・(イ)「更」のここでの意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 36 ・ 37 。

(ア)「凡」 36

① それぞれ
② おおかた
③ 格別に
④ かつて
⑤ おそらく

(イ)「更」 37

① たまに
② 常に
③ そのうえ
④ 決して
⑤ あるいは

Sample

問2　傍線部A「帝　令二宮　人　装　出一、使　者　請二一　女一」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 38 。

① 帝が宮女らに手伝わせて自らの服装を整えさせ、使者に女性を一人求めさせた
② 帝が宮女らに命じて使者が着る服を用意させ、使者に宮女の一人を与えた
③ 帝が宮女らを後ろに従えて使者の前に出て行き、使者は一人の女性を指名した
④ 帝が宮女らを美しく装わせて使者の前に出させ、使者はそのうちの一人を求めた
⑤ 帝が自ら宮女らが着ている衣装を褒める言葉を述べ、使者に宮女らを与えた

問3　傍線部B「欲　至　単　于　者　起」について、返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 39 。

① 欲　至二単　于一者　起　　欲は単于に至り起つ
② 欲　至二単　于　者レ起　　欲するに単于は起つ者に至る
③ 欲レ至二単　于一者　起　　単于に至らんと欲する者は起て
④ 欲レ至二単　于　者　起一　　単于は起ち至ることを欲す
⑤ 欲レ至二単　于　者一起　　単于は至らんと欲して起つ

Sample

問4 【文章Ⅱ】の漢詩に関する説明として正しいものを、次の①～⑥のうちから**二つ**選べ。ただし、解答の順序は問わない。

解答番号は 40 ・ 41 。

① この詩は五言絶句という形式であり、第一句と偶数句の末字で押韻している。

② この詩は五言律詩という形式であり、偶数句の末字で押韻し、また対句を構成している。

③ この詩は五言排律であり、首聯（しゅれん）、頷聯（がんれん）、頸聯（けいれん）、尾聯（びれん）からなっている。

④ この詩のような作品を詠むことができたのは、当時日本と外国との文化的な交流が途絶えていたため、この詩の作者である嵯峨天皇のように高位にある一部の者だけだった。

⑤ この詩のような作品が詠まれていることから、当時の日本の文化において漢詩や漢文が大きな存在感を持ち、日本人にとっても文学的な価値が高いものであったことがうかがえる。

⑥ この詩を詠んだ嵯峨天皇は、日本最古の漢詩文集として知られる『懐風藻（かいふうそう）』を勅撰（ちょくせん）した人物で、空海（くうかい）らとともに「三筆」といわれた書の名手である。

Sample

問5 【文章Ⅱ】と【文章Ⅲ】の漢詩について、次のA群のa・bの説明として最も適当なものを、後のB群の①～⑥のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 42 ・ 43 。

A群

a 【文章Ⅱ】と【文章Ⅲ】の共通点 42

b 【文章Ⅱ】と【文章Ⅲ】の相違点 43

B群

① 【文章Ⅱ】も【文章Ⅲ】も、王昭君が漢の都を去ることになった理由を述べている。

② 【文章Ⅱ】も【文章Ⅲ】も、王昭君が漢の都に二度と戻らなかったことを示唆している。

③ 【文章Ⅱ】も【文章Ⅲ】も、王昭君に漢の都に対する未練などなかったとしている。

④ 【文章Ⅱ】では近いとしている匈奴について、【文章Ⅲ】では果てしなく遠い地として描いている。

⑤ 【文章Ⅱ】は王昭君を醜い女性として描き、【文章Ⅲ】は美貌の女性として描いている。

⑥ 【文章Ⅱ】は王昭君を客観的に捉えており、【文章Ⅲ】は語り手が王昭君の立場でその心情を歌っている。

Sample

問6 【文章Ⅱ】の漢詩からうかがえる王昭君の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 44 。

① 第一句「弱 歳」は、【文章Ⅰ】の「以レ 節 聞二国 中一」と同様に王昭君が節操の固い女性であることを表している。

② 第一句「辞二漢 闕一」は、【文章Ⅰ】にあるように王昭君が元帝に寵愛されなかったことが直接の原因であった。

③ 第二句「含レ愁」は、【文章Ⅰ】で王昭君が元帝の後宮に入ることを望んでいなかった心情を指している。

④ 第二句「入二胡 関一」は、【文章Ⅰ】で王昭君が元帝に単于の妻になれと命じられた結果生じたことである。

⑤ 第五句「蟬 鬢」と第六句「玉 顔」は、【文章Ⅰ】の「儀 形 絶 麗」と同様に王昭君が美貌であることを表している。

⑥ 第七句「長 安 月」は、【文章Ⅰ】で王昭君が元帝を愛していたとあることから、元帝を象徴するものである。

Sample